

授業科目名	図学と製図	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－導入科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習（オムニバス）
配当年次・学期	1年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>図学は、科学的・幾何学的手法を通して、形態を考察・研究する学問です。授業では主に、造形の視点から様々な平面図形や各種立体・空間を取り上げ、基本的なスケッチや手描きによる作図を通して、それらの形態の性質、作図法、表示法を考えていきます。実際に手を動かす演習を通して、様々な図形・形態や空間について考え理解すること、自分の思考を製図によって表現し伝達するコミュニケーション手法を身につけることが目的です。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>図学の概説と製図用具の説明から始まり、各回とも講義と演習を随時おりまぜて授業を行います。基本的な平面図学から投影図を中心とした立体図学、そして綿密で正確な製図技術へと回数を重ねるごとに理解を深めていきます。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1回：ガイダンスー図学の歴史や製図の目的など  第2回：平面ー直線および円弧  第3回：平面ー円錐曲面、楕円、双曲線、放物線、うずまき線  第4回：立体／多面投影ー投影、正投影、副投影、回転法、多面体、曲面  第5回：立体／多面投影ー切断、相貫、展開図、陰影、輝点  第6回：立体／透視投影ー斜投影、軸測投影、標高投影  第7回：立体／透視投影ー測点法、斜角消点法、陰影など  第8回：製図ー線・文字など  第9回：製図ー製図に用いる記号・尺度など  第10回：製図ー寸法記入、図示方法など  第11回：製図ー面肌の図示、文章、記号など  第12回：製図ー図面様式など  第13回：製図ー設計課題1  第14回：製図ー設計課題2  第15回：製図ー設計課題3</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>作図用具（定規、コンパスなど授業内で指示）と用紙は、各自で準備してきて下さい  授業時間以外の作業が必要な場合があります  進行状況などにより内容は適宜変更します</p>			
<b>テキスト</b>			
『わかりやすい図学と製図』住野和男、オーム社			
<b>参考書・参考資料等</b>			
随時紹介			
<b>学生に対する評価</b>			
課題の成果 60% レポート 40%			

授業科目名	空間設計演習 1	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 建築設計に有用な CAD の操作を習得し、設計演習を行いながら CAD を使った作図と表現することを学びます。空間デザインの設計力を養うこと、CAD を使用した 2D 図面によるプレゼンテーションが行えるようになることが到達目標です。			
<b>授業の概要</b> 各課題について、設計主旨文、平面図、立面図、断面図、内観・外観パース（及びスケッチ）を作成しプレゼンテーションします。 <b>課題 1、町家ギャラリー</b> 建物用途：ギャラリースペース、規模 20 坪程度、空家の改修計画  <b>課題 2、専用住宅</b> 建物用途：2 世帯住宅、規模：60 坪程度、構造：木造			
<b>授業計画</b> 第 1－8 回 CAD の基本操作（作図から印刷操作まで）を習得する。 <b>設計課題 1</b> 第 9－12 回 イメージの検討とスケッチによる視覚化。コンセプト形成 第 13－18 回 平面計画、断面計画、立面計画の作成 第 17－18 回 プレゼンテーションと講評 <b>設計課題 2</b> 第 19－22 回 イメージの検討とスケッチによる視覚化。コンセプト形成 第 23－28 回 配置計画、平面計画、架構計画、断面計画、立面計画の作成 第 29－30 回 プレゼンテーションと講評			
<b>履修上の注意</b> 図学製図、空間表現演習 1、2、空間計画演習を履修してあることが望ましい。演習の進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する。授業時間以外での作業が見込まれている。また現地調査などの費用は個人負担とする。			
<b>テキスト</b> 「はじめて学ぶ AutoCAD LT 2015 作図操作ガイド」（ソーテック社）定価 2,380 円+税 設計する身体を育てる（彰国社）定価 2,300 円+税			
<b>参考書・参考資料等</b> 授業内で必要に応じて随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 演習の各課題 70%、講評でのプレゼンテーション 20%、授業への取組態度 10%による総合評価			

授業科目名	空間設計演習 2	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 設計演習を行いながら、そこで考えた各自のプランを題材に3次元グラフィックスの技法まで学びます。単なる3D表現の習得ではなく、2D表現とのフィードバックを行いながらコンピュータを用いた設計実技を習得します。そしてCAD図面とCGパースのセットによるプレゼンテーションが行えるようになることが到達目標です。			
<b>授業の概要</b> 建物用途：複合施設、規模：2階建て90坪程度、構造：適宜、の課題を出題します。建築設計製図を学びながら、各自の作成したプランを2Dと3D表現によってプレゼンテーションします。			
<b>授業計画</b> 第1－2回 ガイダンス 企画・設計条件設定 第3－4回 イメージスケッチの作成 モデリングの基礎1 第5－6回 イメージモデルの作成 モデリングの基礎2 第7－8回 配置と外構計画 モデリングの基礎3 第9－10回 配置と外構計画 マテリアルの基礎1 第11－12回 デザイン確認アドバイス マテリアルの基礎2 第13－14回 平面計画 レンダリングの基礎 第15－16回 平面計画 レタッチの基礎 第17－18回 デザイン確認アドバイス 第19－20回 断面計画 第21－22回 断面計画 第23－24回 立面計画 第25－26回 立面計画 第27－28回 矩計り図 第29－30回 プレゼンテーション（配置・平面図、立・断面図、3Dパース他）			
<b>履修上の注意</b> 演習の進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する。CAD図面の作成など授業時間以外での作業が見込まれるので、欠席しないこと。また現地調査などの費用は個人負担とする。			
<b>テキスト</b> 『超入門 Autodesk 3dsMax 建築ビジュアライゼーション』 櫛間勝義著、学芸出版社 この他に状況に応じたプリントの配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 建築設計製図（実教出版） 建築設計資料集成（丸善）			
<b>学生に対する評価</b> 課題の成果 60% 授業への取組 40%			

授業科目名	現代芸術論 1	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次前期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 秋田公立美術大学の 5 つの専攻のそれぞれのコンセプトや特色を総合的に知ることによって本学が目指す新しい表現の形を論理的に学ぶ。 美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。			
<b>授業概要</b> 5つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。各専攻の基本的なコンセプトや特色を学んでいくが、それだけではなく専攻同士で重なる考え方や専攻を超えた考え方も同時に学んでいく。 シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。			
<b>授業計画</b> 第 1 回～第 6 回 ビジュアルアーツ専攻 「現代における表現の社会的意味と価値について」  第 7 回～第 12 回 ものづくりデザイン専攻 「使用感の充足を生み出すデザインについて」  第 13 回～第 18 回 コミュニケーションデザイン専攻 「メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について」  第 19 回～第 24 回 景観デザイン専攻 「地域文化に裏打ちされたランドスケープについて」  第 25 回～第 30 回 アーツ&ルーツ専攻 「歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について」			
<b>履修上の注意</b> 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	現代芸術論 2	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次後期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> <p>「現代芸術論 1」で学んだ秋田公立美術大学の 5 つの専攻のコンセプトと本学が目指す新しい表現の形をさらに発展的に学んでいく。  美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。</p>			
<b>授業概要</b> <p>5 つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。「現代芸術論 1」で学んだ知識や経験を下地としてそれぞれの分野についてさらに深く学んでいく。また、既存の表現のジャンルを超えた新しい表現について考察できるようになるために基礎的な課題などを伴いながら学んでいく。  シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。</p>			
<b>授業計画</b> 第 1 回～第 6 回 ビジュアルアーツ専攻 「現代における表現の社会的意味と価値について」  第 7 回～第 12 回 ものづくりデザイン専攻 「使用感の充足を生み出すデザインについて」  第 13 回～第 18 回 コミュニケーションデザイン専攻 「メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について」  第 19 回～第 24 回 景観デザイン専攻 「地域文化に裏打ちされたランドスケープについて」  第 25 回～第 30 回 アーツ&ルーツ専攻 「歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について」			
<b>履修上の注意</b> 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・参考資料等</b> 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
<b>学修成果の評価方法</b> 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	現代芸術演習（景観デザイン）	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	選択必修科目	授業形態	演習（複数教員）
配当年次・学期	2年次前期	単位数	2単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>3年次における専攻決定に向けた本専攻の教育方針と授業内容を概説し、理解を深めるための演習を行います。ヒト・モノ・シゼンが織りなす空間や場所を景観デザインととらえた場合、人々が居心地よく生活を営むための空間づくりは不可欠です。そうした空間づくりの基礎演習として、空間デザインの計画と実際の空間づくりを行います。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>与えられた想定敷地のポテンシャルを調査した上で、空間を構成する要素の中でもっとも身体に近い家具などを製作、配置することにより、人の活動（アクティビティー）を喚起する空間を実際につくります。（グループワーク）課題は教員が提示します。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>第1－2回：授業ガイダンスと「空間」と「場所」を考えるワークショップ  第3－4回：対象地のフィールドワーク調査とアイデア出し  グループでのブレストによるアイデア出し  第5－7回：アイデア展開  アイデアの絞り込み  中間講評のプレゼンテーションのための図面と模型製作  （スケッチ作成やイメージ写真の準備等）</p> <p>第8回：中間講評</p> <p>第9－14回：講評に向けた製作（毎週授業日は教員のチェックを行う）</p> <p>第15－16回：最終講評</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>プレゼンテーションにかかる費用、現地調査の交通費は学生の負担とします。  空間づくりの材料は支給するが、その内容は課題発表に合わせて学生に通知します。  プロジェクトの進行に応じてプログラムの内容は適宜変更することがあります。  授業時間以外の作業が必要な場合があります</p>			
<b>テキスト</b>			
<p>授業内容に関わるプリントを配布</p>			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<p>随時紹介</p>			
<b>学生に対する評価</b>			
<p>中間講評（調査力・企画力など）50% 最終講評（独自性・新規性・受容性など）50%</p>			

授業科目名	景観デザイン演習 1 (基礎)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習 (複数教員)
配当年次・学期	3年次前期	単位数	4単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>まちづくりのソフト面である「基本構想」について学びます。想定した演習対象地域において、地域住民と関係者との協働を通して、まちの歴史・文化や地域産業と環境特性を把握し、まちづくりの目的と目標を設定します。そして目標を達成するためには今後「何をすべきか(課題)」を、景観デザインの視点で考究し、基本構想としてまとめます。また、そのための基礎知識と基本手法を身に付けます。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>ランドスケープや建築、空間計画における基礎知識と手法および表現技術、各分野で行われている従来の調査方法、理論モデル、各種事例を参照して、実際に学外の現場へ出て地方風土や地域文化について調査を行います。この調査結果を分析して地方風土や地域文化の課題を景観デザインの視点から考察します。「こうあるべき」という今を見直す提案ではなく、「こうあったらいいな」という未来を描く提案を構想します。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>1. 地域の把握：6回  ガイダンス プロジェクトの説明  まちの見かた調べ方、参考事例など事前勉強  プロジェクトの計画やスケジュールの作成  対象地域の概要など事前研究(資料収集、施工監理の知識等の習得)  事前講評</p> <p>2. 各種調査と構想：18回  対象地域のデザインサーベイ(机上調査、現地調査、施工現場の視察)  対象地域の図面化、模型化  調査結果の分析から対象地域の特性を抽出し今後の検討課題を考察  中間講評</p> <p>4. 基本構想：6回  全体のアイデアディベロップメント  個々のアイデアディベロップメント(ランドスケープ、建築、空間計画など)  提案のまとめ(基本構想)  地域住民や行政、民間団体等に公開(学外プレゼンテーション)  各自の提案を集計して景観デザインの共通課題や問題点の整理  基本構想のブラッシュアップ  最終講評</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>教材(製図用具、材料など授業内で指示)と現地調査の交通費は個人負担とする  授業時間以外の作業が必要な場合があります  プロジェクトの進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する  成果は国内外のコンペ提出など積極的に行い各自ポートフォリオとしてまとめること</p>			
テキスト 状況に応じたプリントの配布			
参考書・参考資料等 随時紹介			
<b>学生に対する評価</b>			
事前講評 20% 中間講評 30% 最終講評(独自性・新規性・受容性)50%			

授業科目名	景観デザイン演習 2 (応用)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習（複数教員）
配当年次・学期	3年次後期	単位数	5単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 景観デザイン演習 1 で立案した「基本構想」を引き継ぎ、「基本計画」についての知識と手法を習得します。まちづくりに関する諸課題に対して、「いかに解決すべきか」を景観デザインの視点でアイデア展開し、まちづくりを達成するための提言書（基本計画書）を作成することがテーマとなります。基本計画においては、まちづくりの目標を達成するための特色ある「かたち」をあらわす街の景観やアメニティーの形質だけではなく、それを実現させるための概略スケジュールや運営体制も盛り込みます。			
<b>授業の概要</b> 基本構想の次段階として、さらにアイデア展開や図面作成、模型作成などの設計作業に取り組みます。ここではランドスケープや建築、空間計画で行われている設計方法を学びながら、それぞれの専門性を横断的に養いつつ、複眼的視野をもった総合的デザイナーとしての能力を身に付けます。			
<b>授業計画</b> 1. 準備作業：3回 ガイダンス プロジェクトの説明 演習 1 の復習、事前研究（資料収集、知識の習得） プロジェクトの計画やスケジュールの作成 事前講評 2. デザインディベロップメント：27回 全体のエスキース 個々のエスキース（ランドスケープ、建築、空間計画など） 提案のまとめ 中間講評 案の見直し 3. 基本計画：15回 基本計画に必要な運営体制、概略スケジュールの考察 基本計画書のまとめ 地域住民や行政、民間団体等に公開（学外プレゼンテーション） 各自の提案を集計して景観デザインの共通課題や問題点の整理 基本計画書のブラッシュアップ 最終講評			
<b>履修上の注意</b> 教材（製図用具、材料など授業内で指示）と現地調査の交通費は個人負担とする 授業時間以外の作業が必要な場合があります プロジェクトの進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する 成果は国内外のコンペ提出など積極的に行い各自ポートフォリオとしてまとめること			
<b>テキスト</b> 状況に応じたプリントの配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時紹介			
<b>学生に対する評価</b> 個々の講評 40% 最終講評(独自性・新規性・受容性)60%			



授業科目名	景観デザイン演習3 (実践)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－景観デザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習(複数教員)
配当年次・学期	4年次前期	単位数	5単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>演習1と2で習得したランドスケープや建築、空間計画における基礎知識と基礎手法、および表現技術を土台として、この演習3はさらに各分野の枠を超えて、自然環境に比重をおく調査方法や場の固有性を生むための論理、国内外の動向を視野に入れた類似事例などを学びながら新たなモデル(理論)を創造します。景観デザインの企画、提案、実践を可能とする知識と技術を学び、総合デザイナーとしての能力を身につけることを目標とします。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>演習計画(プロジェクトとスケジュール)の立案と演習対象の地域選定から、景観デザインに関する「基本構想」の立案までを学生が自主的に行います。対象地域の歴史や文化特性の把握力を含む基本構想の立案(プロジェクト提案)力を身に付けるほか、まちづくりに関係する地域住民やNPOと専門家、および商店街や行政等の関係者との合意形成力やコーディネート力の基礎を身に付けます。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>1. 地域の把握：6回  ガイダンス、演習1と2の復習  各種の調査方法や理論、国内外の事例など事前勉強  プロジェクトやスケジュールの立案  複数の演習対象地域を概略調査  対象地域の選定、選定理由の論理化  事前講評</p> <p>2. 各種調査と構想：33回  対象地域のデザインサーベイ  対象地域の図面化、モデル化  調査結果の分析から対象地域の特性を抽出し今後の検討課題を考察  中間講評</p> <p>3. 基本構想：6回  各自の研究テーマからアイデアディベロップメント  提案のまとめ(基本構想)  地域住民や行政、民間団体等に公開(学外プレゼンテーション)  各自の提案を集計して景観デザインの共通課題や問題点の整理  基本構想のブラッシュアップ  最終講評</p>			
<b>履修上の注意</b>			
<p>教材(製図用具、材料など授業内で指示)と現地調査の交通費は個人負担とする  授業時間以外の作業が必要な場合があります  プロジェクトの進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する  成果は国内外のコンペ提出など積極的に行い各自ポートフォリオとしてまとめること</p>			
<b>テキスト</b>			
状況に応じたプリントの配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時紹介			
<b>学生に対する評価</b>			
事前講評 20% 中間講評 30% 最終講評(独自性・新規性・受容性) 50%			

授業科目名	卒業研究 (景観デザイン専攻)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習（複数教員）
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 卒業研究は、大学4年間の集大成であると同時に、学生個々の専門性と独自性を開拓して磨きをかける授業です。自ら設定した研究テーマをさらに発展させ、研究成果まで展開させます。地方風土や地域文化の把握力を含むプロジェクト提案力を身につけ、対象とする地域住民や行政、民間団体などの合意形成、コーディネート力を身につけると同時に、景観デザインの新しい方法論や論理を模索、確立することを目指します。			
<b>授業の概要</b> 自主的研究のポイントは3つ考えられます。 1. 学生自ら提言するデザイン案を、地域住民や行政等とのワークショップ等を通して検証修正し、基本計画としてまとめる。 2. 研究対象地域に暮らす人々の日々の生活環境の向上とその土地固有の特性を見出すまちづくりに、真に寄与しうるのか、という問いに言及する。 3. 景観デザイン専攻における学生個人の専門性について言及する。			
<b>授業計画</b> 1. 準備作業：5回 ガイダンス、前期の復習 研究テーマの再考と再設定 研究計画の立案やスケジュールの作成 事前講評  2. デザインディベロップメント：50回 基本構想から具体的な事案としてデザインする事象の洗い出し エスキース 提案のまとめ 中間講評  3. 基本計画：20回 基本計画に必要な運営体制、概略スケジュールの考察 基本計画のまとめ 各自の提案を集計して課題や問題点の情報共有 地域住民や行政、民間団体等に公開（学外プレゼンテーション） 最終講評			
<b>履修上の注意</b> 教材（製図用具、材料など授業内で指示）と現地調査の交通費は個人負担とする 授業時間以外の作業が必要な場合があります プロジェクトの進行に応じてプログラムの内容は適宜変更する 成果は国内外のコンペ提出など積極的に行い各自ポートフォリオとしてまとめること			
<b>テキスト</b> 状況に応じたプリントの配布			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時紹介			
<b>学生に対する評価</b> 事前講評 20% 中間講評 30% 最終講評（独自性・新規性・受容性） 50%			